

会 報

2019年4月号

東京アルコウ会



箱根から、富士山を望む

◆4月集会

期 日 4月21日(日)PM2:30~3:00
 係 窪田、広瀬
 会務、山行計画・報告

◆総会 (議事内容は巻末に別記)

PM3:00~4:30
 係 広瀬
 会計報告、100周年関係、新人募集 他
 場 所 赤城生涯学習館

◆4月委員会(同日PM1:00~)

係・添野
 議題・総会議題、各委員の選任 他

◆5月集会の予定

5月26日(日) PM2:30~

5月山行計画

◇日帰りハイキング

期 日 5月3日(金・祝日)
 場 所 奥武蔵・大都津路山 (おおつつじやま)
 係 岡本

◇日帰りハイキング

期 日 5月18日(土)
 場 所 丹沢・大室山
 係 布川

山行報告 山行回数 NO.5666

○2019.3.17(日)~19(火)

東北紀行・秘湯秋ノ宮温泉

=係 谷口=

参加者 L谷口、川目、宇田川、石松夫妻、高橋 t、伊藤
 (参加者7名)

◇3月17日(日)

しばらくお休みしていた東北の旅。流石にみな年をとり男性は皆80代。計画を立てるのも苦勞になってきたのでJRのパックツアーを利用する。行く先は秋田と山形の境界に近い湯沢温泉の近く秋ノ宮温泉。

東京駅に着き列車内ではお弁当の販売が無くなったというので先ず弁当屋に立ち寄り弁当の購入。店内はあふれるような人の数。手に入れるまで一苦勞。その代わりもう旅に出るといふ実感は湧いてくる。10時発のつばさに東京駅から3人、大宮駅から4人乗車。

残念ながら座席がばらばらでお互いにぼつねんと座席に着く。右側の席が取れ終点の新庄まで車窓を楽しむ。関東平野の畑は未だ作物の育つ時期ではなく土色の大地が広がる。福島で仙台方面と別れ秋田方面に。すぐに山道に掛かる。しばらく走り峠にさしかかる頃から回りが雪化粧に変わった。しばらく振りの雪の世界だ。しばらく走り米沢の平地に来ると雪が解け剥き出しの土地になる。間もなく蔵王が見え出す。上部は真っ白。しばらく振りの雪山だ。ひょっとアルコウ会に入ったばかりの頃平井さんが蔵王で遭難があったことを思い出した、天童を過ぎて間もなく平地に雪が見え始め辺り一面雪景色になった。13時半に新庄に到着。新庄はもう完全な雪の中。この駅は新幹線の終点だが殆ど人影が無く寂れたところだ。宿からの迎いのマイクロバスでここから宿までは1時間。空は雪模様でもう夕方のような薄暗さ。辺りの景色もよく判らぬほど。ウツラウツラの1時間だった。宿に着いて先ずは温泉に。夕食の前に一部屋に集まりお互いの健康を確かめ合う。昨年亡くなった小玉さん



にかつての東北の旅と一緒に食事をしたことなど話が尽きない。寝る前にもう一度入浴。

◇3月18日(月)

宿は谷間の少し開けたところにある。すぐ目の前に小さな丘がある以外大した風景はない。お天気が良く回り回りの景色が見えるようになった。朝食前に入浴。今日一日フリーの日だが回りは雪だらけで出かける場所がない。ツアーの唯一のサービスがすぐ近くにある鄙びた温泉鷹ノ湯での入浴。泊まった宿からつい目と鼻の先だがマイクロバスで送迎して貰う。鷹ノ湯は小さな温泉だが7つの浴槽を持ちそれぞれ違った湯質を持っているのが売り物。僅かの時間で浴室のはしご。

宿に戻ってももうすることがない。ビールを空け合間に風呂に入りと午後を過ごした。こんなにゴロゴロしたのは久しぶりだ。

◇3月19日(火)

もう今日は帰るだけ。今日も晴れ。バスから雪の風景を眺めながら楽しむ。

新庄駅は駅も寂しいが買い物も大した物がない。10時過ぎに新庄発。帰りは皆並んだ席が得られた。賑やかに話が弾む。車窓も今日は豪華。先ず山形辺りで月山が。米沢辺りでは吾妻連峰が。福島では吾妻小富士が丁度光の具合が良くくっきりと見えた。山が見える度にかつての山行の思い出などを話し合う。最後は那須。楽しい旅もこれでおしまい。また次回の旅を約しながらそれぞれ帰宅の途についた。

(記 伊藤)



山行報告 山行回数 NO.5667

○2019.3.21(木・祝日)

奥武蔵・飯盛山

=係 岡本=

参加者 L岡本、延里、永澤、小國 (参加者4名)

◇3月21日(木) 晴れ時々曇り

東武越生線越生駅で集合し、黒川行きバスに乗車。車窓から満開の梅が目を楽しませてくれる。山に囲まれたのどかな田園の中の麦原入口バス停で下車。いたるところで梅の花が咲いている集落を通り山の傾斜地を登って行く。道端にお地藏さんといくつかの石碑がある。お地藏さんには雨除けの屋根があり、この地の人々の温かさを感じる。里は梅だけではなく、ユキヤナギ、レンギョウ、スマレ、キャラブキなどの花がここぞと咲き乱れている。炭焼きをしている人であった。竹炭を作っているとのこと。早速竹炭の効果説明があった。急な曲がりくねった道を登って行くと、柑橘類の畑になり、大きなミカンの実がありグレープフルーツの名札が木につけられ、ほかの木にもそれぞれ名札がある。どの木も同じように見える。

粗末な「飯盛峠」の道標があった。個人が登山者のために作ってくれたものであり有難い。さらに急な坂



道を登って行くと杉や檜の植林帯になった。道標「白小石」があり、山奥方向に「野末張見晴台」(のすばり)の案内。「龍ヶ谷地域活性化推進の会」と設置者の名入である。登山道の山側には50mはあろうか巨大な石灰岩が杉の木の間にあった。小石の名にはふさわしくないが、岩は白い。さらに登り大平尾根に出た。

山頂名を表す標識のないピークをいくつか通り、羽賀山山頂も知らずに通り過ぎ、アスファルト舗装の立派な林道に出た。苦しい登りを耐えてきたのに、車で来ることができると分かると気落ちする。林道を登って行くと広場があり「中山間地域等直接支払制度龍が谷集落事業達成記念」の立て札があった。「デコポンやワラビ、マイタケ、ブルーベリー等の新規取り組

み、山桜や見晴台整備などの農業生産活動を続けるための事業を取り組んだ。」との趣旨が記載されていた。林道からの野末張見晴台の入口には自然大木を使った立派な案内標識があった。

野末張見晴台に上がった。周りの山々の素晴らしい展望が開けばし見とれたが、すでに春霞が立ち東京など遠くは見えなかった。ここは広場が広くベンチも用意されている。3世代の家族とアマチャー無線に夢中で交信中の人がいた。我々は昼食休憩とした。

昼食休憩の後再び林道を進んだ。林道のわきには薄緑のキブシ、黄色のヤシヤブシ、白やピンクのアセビの花が咲いていた。2本の林道と電波塔につながる工事道が交差する飯盛峠に着く。少し登山道を登り飯盛山山頂に到着。山頂は杉や高木の広葉樹が茂り見晴らしは良くなかった。

山頂から林道へ下り、下りの登山道を探す。地図には石仏の表示があり、林道から石仏を探したが見つからない。ガードレールに人が通れるような間隔があり、見下ろすと登山道があった。登山道に下りると、石仏があった。林道の真下になり、上から探したのでは見つけるのは困難。柏木尾根の登山道を下った。造林小屋跡横を通過。

尾根を直進して南へ下って行ったが、途中で道がなくなり、引き返した。

分岐のようなところまで戻り、尾根から西へ山腹を回るように下り、再び尾根上に出た。さらに下って行くと2棟の廃屋になった神社跡が登山道の脇にあった。地図の通りであり間違いなし。

人家が眼下見え隠れするところまで来て、再び登山道は分からなくなった。地図では「荒廃」の表示。登山道は竹藪で荒れてなくなっている。急坂でしかもタケノコを掘った跡が穴になっており足を取られる。人がタケノコを掘れば埋め戻すが、イノシシが掘ったようである。慎重に下り畑に出、柏木集落を通り抜け車道に出た。北川沿いの車道を下って行った。車道の側溝上に2匹の狸を見つけた。こちらが近づかずに見てい



ると逃げない。人なれしているようである。近づくと側溝に逃げ込んだ。空き家と思われる荒れた家屋が所々にあり、野生動物が進出してきているように思える。北川と車道の谷をまたぎ山から山へ箱状のコンベアをくぐり、さらに下って行くと西武秩父線が見てきた。さらに下流へ進み西吾野駅に着いた。

西吾野駅から飯能駅へ行き反省会を開き解散した。
(記 小国)

<コースタイム>

東武越生線越生駅集合8:30⇒麦原入口バス停8:50⇒登山口9:50⇒野末張見晴台(昼食)11:35~12:15⇒飯盛峠13:10⇒飯盛山山頂13:15⇒石仏14:00⇒柏木(車道着)16:35⇒西武線西吾野駅着17:35⇒西武線西吾野駅発17:53⇒飯能駅着18:21



赤城生涯学習館まつりの一コマ 3/16, 17

東京アルコウ会

代表 窪田 紀夫 TEL 0297-73-1237

〒302-0022 取手市本郷1-19-13

事務所 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町2-21-10

谷口 宅 TEL 0422-48-1303

発行 平成31年4月25日